

地震

この冊子の記事情報は、2024年8月現在のものを使用し作成しております。最新の情報は由布市のホームページよりご確認ください。

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

●最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保……手近な座布団などで頭を保護

●揺れがおさまったら

- 火元を確認……火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認……倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく……家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等注意到意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



3分

●みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 要配慮者の安全確保……隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 初期消火……消火器を使う、バケツリレー、風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意
- 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

5分

●防災ラジオなどで正しい情報を得る

- 大声でけが人の確認
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する

10分

●協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

数時間

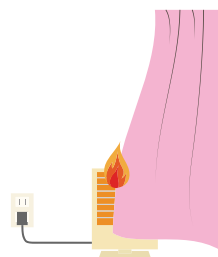
3日



屋内にいた場合

●家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。



●集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



●デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

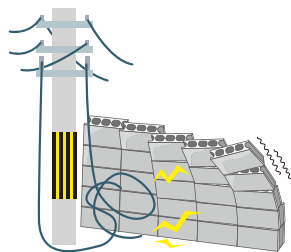
●劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- あわてずに冷静な行動をとる。

屋外にいた場合

●路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



●車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

●電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

●海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。